



一般市民を対象とした普及啓発の開発と実践

研究代表者： 白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究協力者： 山崎 厚司（公益財団法人エイズ予防財団）
辻 宏幸（公益財団法人エイズ予防財団、国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS 先端医療開発センター）

研究要旨

1981年に米国で最初のエイズ患者が報告されて以来、エイズは世界中に広がり、多くの国々に深刻な影響を与えてきた。わが国においても1985年3月に最初の症例の報告がなされると、無知とセンセーショナルな報道から、いわゆるエイズパニック現象が起こり、差別や偏見が瞬く間に広がっていった。この30年余の間、正しい知識の普及啓発、検査・診療体制の充実、研究の推進など種々の施策が採られ、特に治療の分野では著しい進歩を遂げている。にもかかわらず、一時の過剰な報道とその後の無関心から、国民のエイズに対する意識はパニック当時のままに止まっている。本研究では、HIV感染症・エイズに対する国民の意識・知識の状況を把握し、エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践を行うことを目指し、次の取り組みを行った。1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査、2) 効果的啓発手法の開発と実践、3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施。

調査の結果、①「死に至る病」という印象をもつ者は48.4%、②適切な治療は他への感染リスクを減らすことを知っていた者は39.6%など最新情報の認知は低い、③男女による意識・知識の差は無い、④年齢が低いほど偏見が小さいことが分かった。これらのことから、若年層に向けてYouTubeを使った正しい知識の普及を、中・高年層に向けて知識のアップデートを目的としたメッセージの発信を行うこととした。また、啓発の実践として、世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2019」を実施、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資材配布を行った。

研究目的

平成30年3月内閣府政府広報室から発表された「HIV感染症・エイズに関する世論調査」によると、エイズの印象として、『死に至る病である』52.1%、『原因不明で治療法がない』33.6%など、過去のイメージのままの者が多数存在することが分かる。平成30年1月18日に改正された、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針に記された「対象者の実情に応じて正確な情報と知識を、分かりやすい内容と効果的な媒体により提供する取組を強化する」に資するため、効果的な普及啓発手法の開発とその実践を行うことを目的とした。

研究方法

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

目的：効果的な普及啓発手法の開発に当たり、HIV感染症に関する意識調査を行い、国民の知識の状況を把握する。

対象：大阪府在住一般市民、年齢5歳階級各515人、計5,665人

方法：マクロミル社のモニターパネルを利用しインターネット調査を行った。調査内容は「HIV/エイズに関する4万人の意識調査」（平成17年、gooリサーチ）から選定、改編した。なお、この調査は平成12年に実施された世論調査をベースにしている。

実施時期：平成31年1月31日～2月2日

2) 効果的啓発手法の開発と実践

目的：1の意識調査により把握された、啓発すべき内容、対象等に応じた、効果的啓発手法を検討し、実践する。

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

価値観が多様化し、さらに様々な情報発信ツール、メディアが発生・発達した現在において、HIV感染症・エイズに対するイメージを変え、行動の変化を促すには、行政などが単独で啓発を行うのではなく、複数のセクターが一体となって活動することが効果的であるとの観点から以下の取り組みを行った。

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2019」

12月1日の世界エイズデーに合わせて、前後の期間を「大阪エイズウィークス2019」として、エイズに関連したジャンルで活動する団体・グループ・個人が、自治体・企業・メディア等と連携しながら、気軽に参加できるものから深く学べるものまで様々なイベントや企画を運営し、市民のエイズへの関心を高めて感染拡大を防ぐとともに、感染した人々も安心して暮らせる社会の実現を目指すこととした。

公益財団法人エイズ予防財団の呼びかけに賛同した団体・グループ・個人・企業が、それぞれ（または協働して）得意分野でそれぞれの対象者に焦点を当てた企画を実施した。自治体を実施するエイズ予防週間の取り組みも合わせて広く市民に対して広報を展開し、各団体・グループ・個人・企業の広報でも情報提供を行った。

参加団体の情報共有、企画・広報調整のための連絡会を年4回開催した。エイズ予防財団大阪事務所が連絡会の事務局を担い、参加企画のとりまとめや広報などを行った。

(倫理面への配慮)

インターネット調査の手法は個人が特定されることはなく、内容にも個人が特定され得る臨床情報や写真などを含まないため、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の対象外である。啓発資材の制作にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮した。

研究結果

1) HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査

大阪府在住一般市民、年齢5歳階級各515人、計5,665人を対象とし、平成31年1月31日～2月2日に行ったインターネット調査から次のことが得られた。

①性別による意識・知識の差

HIVとエイズの違いを知っているかの設問では、知っている、なんとなく知っていると答えた者の割合は男57.6%、女56.9%と差は見られなかった(図1)。また、感染経路に関する設問において、男性の方が正答率が高いと期待される選択肢「患者や感染者とカミソリを共用する」、女性の方が正答率が高いと期待される選択肢「患者や感染者からの授乳や出産」を選んだ者の割合に大きな差が見られなかった。これらのことから、性別による意識・知識の差はないと思われる。

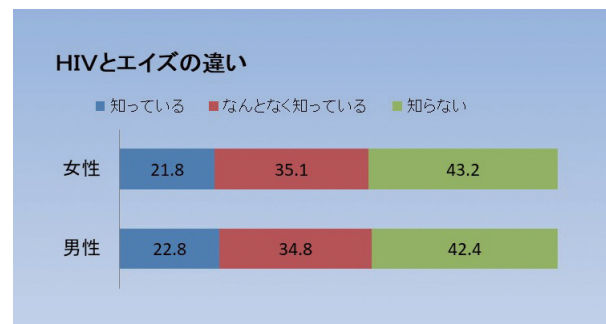


図1 性別による意識・知識の差

②年齢による意識・知識の差

HIVとエイズの違いを知っているかの設問では、知っている、なんとなく知っていると答えた者の割合は15～19歳では72.2%であったのに対し65歳以上では41.4%であった。また、一緒に働く・学ぶことに対する意識について、受け入れられる、どちらかといえば受け入れられると答えた者の割合は15～19歳の79.0%に対し65歳以上では54.4%であった(図2、3)。

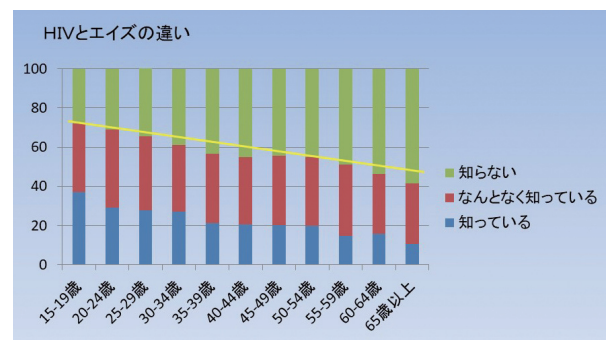


図2 年齢による意識・知識の差-1

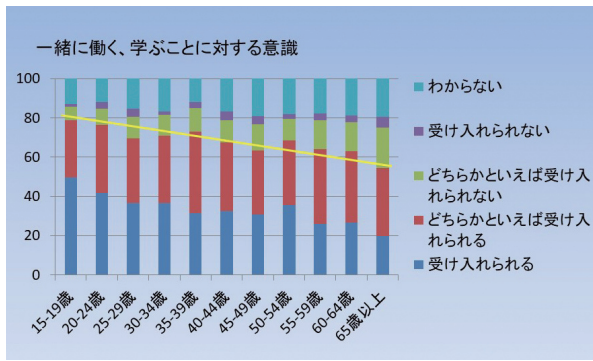


図3 年齢による意識・知識の差-2

③これらから、中高年層においては正しい知識の更新が行われておらず、それにより偏見が続いていることが推測された。

2) 効果的啓発手法の開発と実践

意識調査を基に、若年層向けと全世代向けの二つに分けた啓発を実践することを計画した。

①若年層向け啓発

30歳以下の利用率が80%を超えているとされているYouTubeでの配信を目的とした動画を作成、配信した。

作成にあたっては、(1)1編あたり5分以内、(2)キャ



図4 若手俳優とCGキャラクター



図5 和やかな雰囲気での演出

クターによる進行、若手俳優の起用など親しみやすさ、(3)必要最小限の情報に絞り込むなど分かりやすさ、(4)専門家による解説による信頼性、正確性の確保、(5)タイトルの工夫、キャラクターなど話題性、インパクトなどに留意した(図4~6)。

・タイトル:「考えよう!身近なHIV・エイズの話」

・内容:

第1話「エイズって何?」(3分44秒)

第2話「感染ルートと予防法を知ろう」(3分05秒)

第3話「HIV陽性者の日常」(6分03秒)

第4話「HIV・エイズの復習をしよう」(3分47秒)

配信開始から約2カ月後の再生回数は4編合計2071回であった。

②全世代向け啓発

平成30年度HIV検査普及週間に際し作成したピクトグラムを利用し、啓発メッセージ付きオリジナルウェットティッシュを作成、配付した(図7)。使用の都度開閉するフラップ式ラベルに、単純化したイラスト、短く分かりやすいメッセージを印刷することで、反復接触効果が期待される。配付イベント、配付数は図8の通りである。



図6 専門家による解説



図7 啓発メッセージ付きオリジナルウェットティッシュ

日	イベント名	地域	個数
4月28日(日)・29日(祝)	TOKYO RAINBOW PRIDE	東京都渋谷区	1,800
5月25日(土)・26日(日)	NLGR+ (Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus)	名古屋市	1,000
6月1日(土)・2日(日)	SAKAE-SPRING (300組のアーティストが参加する大型ライブサーキット)	名古屋市	6,000
6月1日(土)・2日(日)	FM802 30PARTY SPECIAL LIVE RADIO MAGIC	大阪市	20,000
6月2日(日)	シブヤハチ公前キャンペーン	東京都渋谷区	3,000
11月23日(土)・24日(日)	ギリアド社那覇空港世界エイズデーキャンペーン	那覇市	3,000
計			34,800

図8 メッセージ付ウェットティッシュの作成・配布

3) 地域におけるマルチセクター連携による啓発の実施

世界エイズデー・キャンペーン「大阪 AIDS WEEKS 2019」

20を超える団体や個人、店舗等の参加・協力のもと11月20日(水)～12月14日(土)のコア期間を含めて11月～12月の2ヵ月間、様々な取り組みが展開された。

全体広報のために、ガイドブック15,000部、ポスター1,000部を作成し、参加団体や関連協力店舗、近畿2府4県+三重県の拠点病院、近畿1府4県+三重県(大阪府を除く)の保健所設置自治体等に送付した。また公式ページに全実施企画を掲載し、さらにFacebookとTwitterを通じて、情報の拡散に務めた。

主な「大阪 AIDS WEEKS 2019」参加企画は以下のとおりで、イベントやキャンペーンにより、大阪府民を中心とした近畿圏在住者に対して情報発信や啓発資材配布を行った。

(1) ラジオ番組『LOVE+RED』

放送：FM OH!

放送日時：毎週火曜日 19:30～20:00

内容：HIV/AIDSに関わるゲストによるトーク、ニュース・トピックス等を放送。エイズウィークス参加イベントの告知等が行われた。

(2) 大阪エイズウィークス2019 協同街頭キャンペーン

主催：公益財団法人エイズ予防財団

協力：エイズ予防週間実行委員会(大阪府・大阪市・堺市・高槻市・東大阪市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市)、四條畷保健所、スマートら

いふネット、薬と医療の啓発塾、PARTNERS、法円坂メディカル、大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター、ギリアドサイエンス

日時：11月30日(土) 13:00～15:00

場所：OSAKA STATION CITY カリヨン広場

(3) 女性スタッフによる女性のための検査・相談 特別企画『レディースデー part II』

主催：特定非営利活動法人スマートらいふネット

日時：12月4日(水)、18日(水) 17:00～18:30
受付

(4) HIV/エイズ電話相談(特設)

主催：特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター

共催：大阪検査相談・啓発・支援センター chotCAST

日時：11月25日(月)～12月1日(日) 18:00～20:00

(5) エイズ啓発大阪ジャズフェスティバル Vol.2

主催：第32回日本エイズ学会学術集会記念イベント実行委員会

協力：日本学校ジャズ教育協会関西本部

日時：11月10日(日) 14:00～17:00

場所：COOL JAPAN PARK OSAKA SS ホール

(6) エイズ予防週間実行委員会世界エイズデーキャンペーン

主催：エイズ予防週間実行委員会

内容：

①電子広告掲出

期間：11月25日(月)～12月1日(日)

場所：JR大阪駅・天王寺駅デジタルサイネージ、天王寺駅東口マルチビジョン、梅田HEP前ビジョ

ン

②太陽の塔ライトアップ

日時：12月1日(日)日没から22:00まで
 場所：日本万国博覧会記念公園太陽の塔
 内容：レッドリボンにちなみ赤くライトアップ

(7) 第3回関西 HIV・薬剤 Workshop

共催：特定非営利活動法人薬と医療の啓発塾、公益財団法人大阪公衆衛生協会

日時：12月14日(日)
 場所：アットビジネスセンター PLEMIUM 大阪駅前
 内容：HIV/STI 検査普及のためのグループワーク、講演会

(8) セミナー「U=U を生きる～U=U は私たちに何をもたらすのかを考える～」

主催：関西 HIV 臨床カンファレンス カウンセリング部会

日時：12月14日(土)15:00～18:00
 内容：U=U のメッセージは何をもたらしたのか、何が求められているのかを考える。

(9) ゴールデンボンバー×近畿大学×ジェクス「性について本気出して考えてみた」

主催：ジェクス(株)、近畿大学
 日時：11月21日(木)16:00～18:00
 場所：近畿大学記念会館
 内容：若者に向けた、性について正しい知識を学ぶ学習型フォーラム

(10) 研修会「セクシュアルマイノリティとエイズ」

主催：大阪府、MASH 大阪
 場所：コミュニティセンター dista
 内容：

①ワーク&セックスバランス-就労支援と性の健康

日時：11月24日(日)15:00～17:00

② HIV 診療の最前線

日時：12月14日(土)14:00～16:00

(11) 2部制土曜日夜間即日検査

主催：特定非営利活動法人スマートらいふネット
 日時：11月30日(土)、12月7日(土)18:00～19:30 受付

(12) 映画「ボヘミアン・ラプソディ」上映会とトーク

主催：公益財団法人エイズ予防財団
 日時：12月13日(金)18:00～21:00
 場所：HEP HALL
 内容：エイズで死亡したフレディ・マーキュリーの伝記映画「ボヘミアン・ラプソディ」を題材に、HIV/AIDS の現状等を伝えた。

(13) コンドーム試触会 in OSAKA 2nd !

主催：信長 TOYS・信長書店
 日時：12月1日(日)13:00～15:00
 場所：浪速ビル
 内容：各種コンドームの試触とコンドーム使用・検査受検の重要性に関する公演会
 キャンペーンの実施による効果を直接的に測るこ



図 9：大阪エイズウィークス 2019 ポスター



図 10：共同街頭キャンペーンでの配布資材セット

とは難しいが、多くの個人・団体・企業の協力の下、様々なイベントや企画が実施され、啓発の機会を提供することができた。

種類・名称	作製配布数
大阪エイズウィークス 2019 ガイドブック	15,000
大阪エイズウィークス 2019 ポスター	1,000
啓発用クリアファイルバッグ	2,000
啓発メッセージ付き使い捨てカイロ	2,000
啓発用コンドーム JEX	2,000
パンフレット おおさかエイズ情報 NOW	2,000
啓発用ポケットティッシュ (chotCAST/ 行政)	2,000
各団体イベントチラシ (4種)	2,000

図 11：資材作製・配布数

考察

意識調査の結果、性別による意識・知識の差はないことが分かった。また、年齢別では、若年層ほど正確な知識を持っており、HIV/AIDS に対する差別・偏見意識が低いこと、中高年層では知識が不足していること、差別・偏見を強く持っていることが分かった。また、イベント参加者へのアンケートから、中高年層においては 30 年以上前のエイズパニックの頃の知識にとどまっている者も多くいることが明らかとなった。エイズに対する偏見や差別を解消し、予防行動や検査受検を促進するためにも啓発による知識のアップデートが必要であると考えられる。

結論

多くの国民のエイズに対する意識はエイズパニック当時のままに止まっているものと考えられる。エイズに関する知識のアップデートとイメージを変えるために効果的な啓発の開発とその実践が必要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし